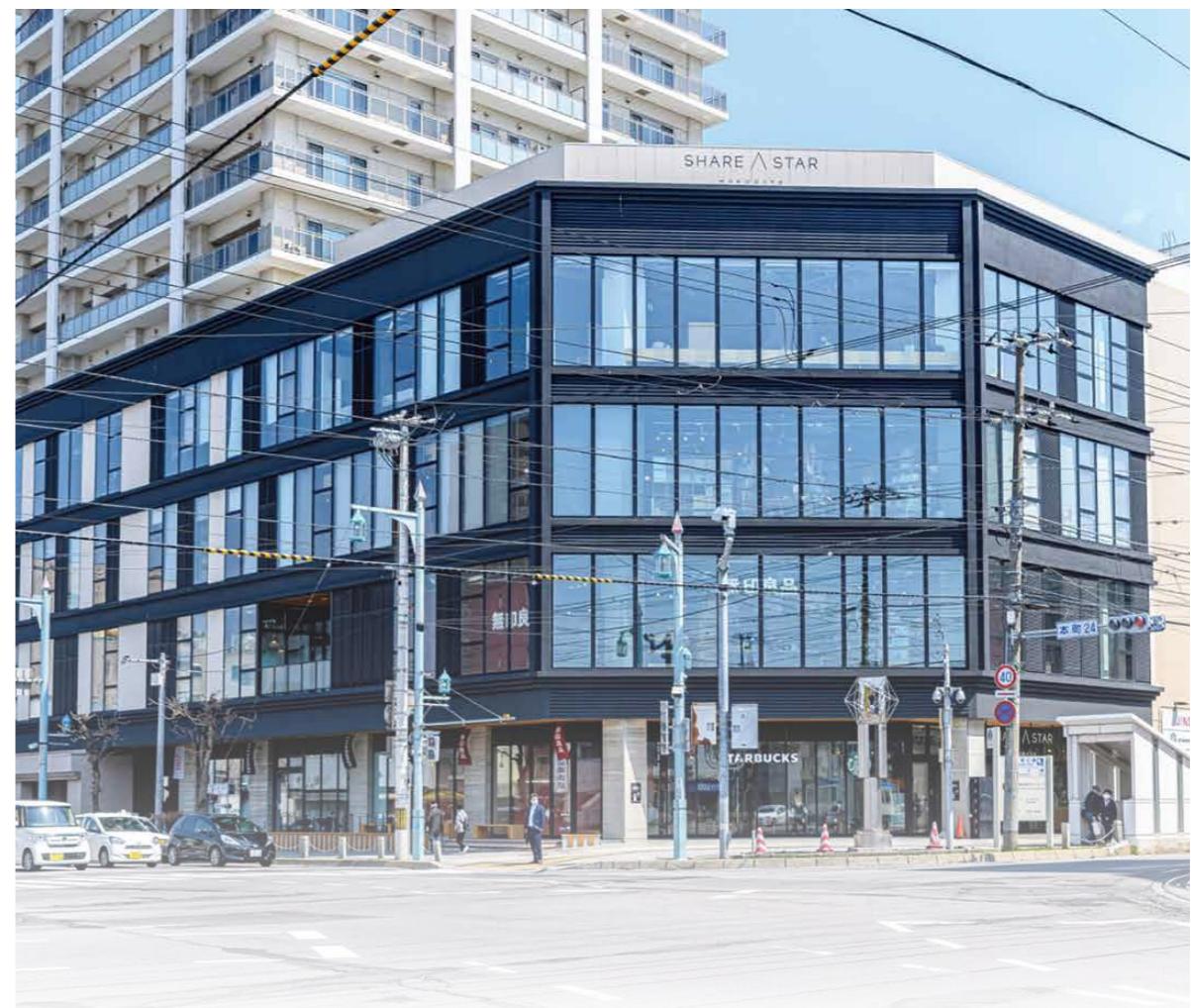


道南ユースマガジン **each** No.03
2023.10.15発行
発行/函館コミュニティプラザGスクエア ☎040-0011 北海道函館市本町24番1号 シエスタハコダテ4階



SHARE △ STAR

シェスタ ハコダテ

〒040-0011 函館市本町24-1 TEL/0138-31-7011
www.sharestar.jp

営業時間 1F~3F 10:00~20:00
(スターバックスコーヒー 7:00~22:00)
4F Gスクエア 9:30~21:30

———— #シェスタをシェアしよう ———

シェスタハコダテ公式SNS





私たちには、それでいい。
今も昔も、これからも。

好みも、興味も、世の中の捉え方も、それぞれ違っていて当然。
無理に誰かと合わせる必要はない。

自分の感性を大切にしよう。
そのために、他人の感性も尊重しよう。

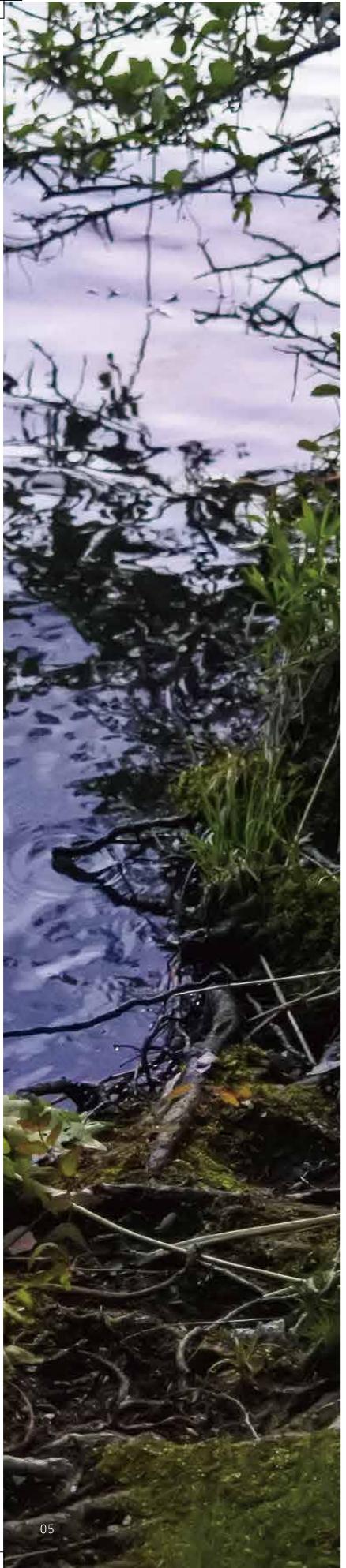
「everyone (みんな)」と、ひとつくりにするのはおしまいた。
本当は「every (すべて)」の「one (個々)」なんだから。
違いがあっても、私たちはそれぞれのままで手を組める。

道南の若者たちがそれぞれの視点で見つめた街を、それぞれのスタイルで表現して、一冊の本にまとめた。
これは、今、このメンバーでしか作れなかった作品であり、地域の一時代を切り取った唯一無二の記録となるはずだ。

たとえ経験が浅くても、若者には若者にしか作れないものがある。
そのことは昔を懐かしく思う大人ほどよく理解できるだろう。

自分たちが今見ている世界をページにする。
それぞれの感性に従って。

道南の若者によるローカルマガジン『each』の第3号です。



each No.03

contents

08 eachの軌跡 キセキ

09 「地域って、なんだろう。」
地域活性化・地域福祉それぞれの分野へのインタビュー

15 「音楽の居場所」
函館の音楽シーンの昔と今を探るインタビュー

21 「私たちの青春」
アンケートを中心に自分たちの青春を考える

27 「函館にいる私たちから見た土方歳三」
函館ゆかりの人物・土方歳三について深掘りしてみた

33 「僕たちの現在地はどこだろう」
インタビューや座談会を通して自分たちの現在地を探る

39 Editors note
講師・スタッフによる編集後記

道南の若者がつなぐ、
モノガタリ。



ローカルマガジンプロジェクトについて

「ローカルマガジン制作を通して、道南の若者が地域や人と関わり、それぞれの”個”をみんなでカタチにする過程で、様々な成功や失敗を乗り越え成長していく」
そんな場と機会をつくりたいという想いから始まったプロジェクトの第3弾!
道南で暮らし、関わりを持つ若者が集まつた約4ヵ月間。
私たちの現在地の3号目の完成です。

「each」に込められた思い

「若者一人一人の”今”を全力で肯定したい」
存在も、思想も、感情も、価値観も、全部ひっくりめた”今”その時の個を、
「それでいいんだよ」と言ってあげられるような、
eachという媒体を通してそんな許容のある場をつくりたい。
その上で、それがこれからの一歩を踏み出せる機会をつくりたい。

今回のプロジェクトで、そのすべてが出来たわけではないし、
まだまだ道半ば、むしろ発行してからが「each」のスタートラインです。

「それでいいんだよ」と言ってくれる、
家でも学校でもない、親でも先生でもない、ちょっとナナメの場があれば、
地域の若者たちが失敗を恐れず、勇気を出して、新しい世界と会える機会があれば、
道南の未来はもっともっと楽しくなる。
そういう希望を抱いて、これからの「each」を歩んでもらえたら
こんなに嬉しいことはありません。
このマガジンを読んだ人にもそんな思いがどうか伝わりますように。

函館コミュニティプラザGスクエア

epoch



「将来、地域のことをやりたい！」と思っている私たちは、
地域という言葉の使われ方は多様で、その言葉が指す範囲は
それぞれ少し異なるのではないかと疑問を持ちました。
そこで、私たちが目指す分野の活動を行っている人たちが表す
「地域」は何を指しているのか、
「地域活性化」と「地域福祉」の分野から取材しました。

09

な ん だ ろ う 。



08

Local Revolution



函館近海で大量に獲れているマイワシを活用した「ハコダテアンチョビ」の商品化、未利用・低利用資源である脱脂粉乳とおから消費拡大を目指すプロジェクト「おまめどみるくに花束を」など、一次産業の活性化を中心に活躍を続ける一般社団法人「ローカルレボリューション」。彼らの捉える『地域』とはなにか、取材してきました。

ローカルレボリューションの 「ローカル（＝地域）」は、 何を指しますか？

亘胤 僕らの言う地域は、声が聞こえるとか手が届くとか目が届くとか、見える人たちかな。

いゆ 自分とその周りの人の暮らし。

亘胤 その距離が近ければ近いほど、熱量が高くなるよね。

岡本 どこの地域っていうわけではなく、自分たちの手で届く半径何メートル、自分一人から家族、友達とか、その半径をどれだけ広げていくか。自分たちのやれる事をどこまで広げていくかっていうことを意識してる。

亘胤 く、自分たちの手で届く半径何メートル、自分一人から家族、友達とか、その半径をどれだけ広げていくか。自分たちのやれる事をどこまで広げていくかっていうことを意識してる。

岡本 手の届くところから泥臭く向き合ってできたような事例だと、どこの地域に行つても通用すると思うから、それがいずれは日本を変えられる仕組みになる気があるんだよね。

亘胤 そこで儲かってくださいってシステムだけ用意して、でも実際に運用するたちはそれの使い方とか、修正の仕方もよくわかつてない。みたいなことがあるよね。

亘胤 これが儲かってくださいってシステムだけ用意して、でも実際に運用するたちはそれの使い方とか、修正の仕方もよくわかつてない。みたいなことがあるよね。

亘胤 俺はすべての人を肯定したいと思ってるんだけど、それがなかなかされてないのが世の中じゃん。

世の中的には少し変わったりとか、人と違うって言われたりする人がいるけど、そういう人たちが悪いんじやなくて。それを肯定できない社会を俺は寂しいなって思ってて。その人たちだけじゃいけないなと思つてたんだよね。

亘胤 俺はすべての人を肯定したいと思ってるんだけど、それがなかなかされてないのが世の中じゃん。

亘胤 世の中には少し変わったりとか、人と違うって言われたりする人がいるけど、そういう人たちが悪いんじやなくて。それを肯定できない社会を俺は寂しいなって思つてて。その人たちだけじゃいけないなと思つてたんだよね。

亘胤 俺はすべての人を肯定したいと思ってるんだけど、それがなかなかされてないのが世の中じゃん。

亘胤 これが儲かってくださいってシステムだけ用意して、でも実際に運用するたちはそれの使い方とか、修正の仕方もよくわかつてない。みたいなことがあるよね。

一地域を活性化するというより、人助けをしたいという方が強い？

岡本 そうね、地域の活性化ってシェ

スタッフが出来たところとか自分でもよく使つてた言葉なんだけど、最近は活性化

つてあんまり使わなくなってきた。

亘胤 部活のノリに近いよね。プロになれる為に頑張ってるわけじゃないで仲間と一緒にオラオラって言うのが楽しくて頑張ってる。

一コロナが空けるまで、本業と両立で活動するのはかなり大変だったと思うんですけど、そのモチベーションはどこから？

いゆ 楽しさしかなかったからですかね。負担じゃないというか。ほんとやりたいって感じです。

亘胤 部活のノリに近いよね。プロになれる為に頑張ってるわけじゃないで仲間と一緒にオラオラって言うのが楽しくて頑張ってる。

一地域を活性化するというより、人助けをしたいという方が強い？

岡本 そうね、地域の活性化って

スタッフが出来たところとか自分でもよく使つてた言葉なんだけど、最近は活性化

つてあんまり使わなくなってきた。



やめといた方がいい」

「函館で自立生活をするのはちょっと

ダメだなって思ってた

けど、今思ってみると

自分たちの人生が

もう少し豊かになら

うな気がする

「函館で暮らすのはやっぱ

り厳しかった

けど、今は

もう少し

楽しくな

る

んだ

」

と笑顔で

話す

横川さん

は、

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

。

「

地域で暮らす

」

を

重んじ

る

人

だ

「場所」とは、どんな場所なのが。○「音楽の居場所」とばかり、どんなん場所なのが。○臭きはそこにあるが。○マニアにあつた。○ここにあつた。○今はどうだろう。○泥臭きはそこにあるが。○場と悲嘆ばれた。○しがし鬱鬱がそ

音楽の居場所

Editor's note

北村 梨紗



りさと言います！十勝から来た教育大の2年生です。
テーマの言い出しへで、
ライティングもデザインもやらせてもらいました。
伝えたいことが多すぎて、見開き2Pに収めるのがめっちゃ大変でした。

超憧れのローカルレボリューションに取材したい！
という願望は叶ったんですが、
緊張しちゃって全然うまくできなくて。
そんな時に他の二人が私の分までしっかり取材してくれて、
仲間の大切さを改めて感じられる機会でした。

あなたの「地域」の解釈はどんなものでしたか？
私は取材前と後とで、ぼんやりしていたそれがとても明確になりました。
記事を読んだ後に、あなたにも新しい解釈が生まれていたら嬉しいです。

山内 淑乃



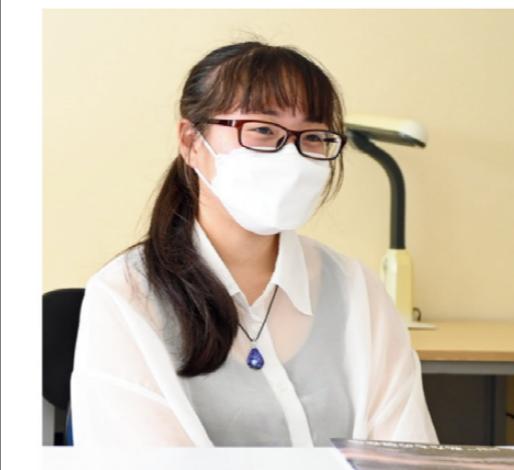
秋田出身の教育大2年生。血液型はB型です。

今回eachの「地域って何だろう。」に参加してみて感じたのは、
地域とは単なる枠組みのことではないのだということです。
だからこそ都会から田舎に移住したいという人の思いが
少しあったような気がします。

本編ではほとんど文字起こしか出来なかったのですが、
他の2人がとても良い記事に仕上げてくれました。

私自身も取材を受けてたくさん学びになることがあり、
皆さんにもぜひ読んでもらいたいなと思います。

堀抜 彩音



初めまして、七飯高校三年生のあやねといいます！
私は今回初参加で、デザインや話し合いなど、
全体的に先輩お二人任せっきりだったような気がしますが、
初めての参加にしては割と上手くいったのではと思っています。

元々地域と言えば土地やそこに住んでいる人っていう
イメージが漠然とあるだけでしたが、
今回を通して住民や周囲の人々の
「地域」に関する意思や活動なのかなと思い始めてきました。
加えて外側の人が地域を変えるために「地域の一員」として動いてくれることもあるんだということが新しく嬉しい発見でした。

この記事を読んで、地域のあり方や関わり方、
また介護・福祉の分野に少しでも興味を持って考えてもらえたなら幸いです。



昔の函館の

音義

昔はバンド活動禁止の学校もあった。その当時はバンドと言えば不良っぽい音楽で、タバコをみんな吸つていて、やんちゃな子達が集まつていたため、学校には部室もなく練習するのには楽器屋さんに入つて演奏場所代をみんなでチケット売つてLIVEをおこなつていた。当時楽器屋は函館に3軒くらいあり、楽器屋さんはコンサートに出ることやお祭りにたので、あうん堂にも補導員が度々補導員が来ていたそうだ。今の函館ライブハウスは、コロナになったとき2軒で、いま増えているそうで5、6軒あるそうだ。最近のものはライブハウスだけでなくライブバー、ライブカフェなど、ライブがメインじゃなくなっていると。基本的にはライブハウスは貸しホールという感じで。昔、あうん堂は他校の生徒や、大人と関わる特別な居場所だった。

経質になつた。1年以上ライブやれなくて正直、なくなるとまでも思つた集まること＝悪みたいになつて、いろいろ対策をしなくてはならなくなつて、そうなるとやはりアクリル板の設置、観客を半分に制限、配信での演奏などの対策をとらないといけなくなり、窮屈になる。アクリル板があると反射で演奏者は自分の顔しか見えない(笑)実際のこと

などが手元にほしかつた。収集癖なんか集めることが楽しかつた。YOUTUBEなど無料動画配信サービスで聞けるのはいいことだと思う。YOUTUBEで探して、いいと思つたのをものとして買う。本もおなじで、だから無料で聞けるから需要がなくなるということではないと思う。」と音楽の多様化を感じているようだつた。

「た。やるしかないからやつて、でもお客様さんは決まっていて、街の人は出てこない。コロナが収束したらきっと戻つてくる。」と話しておきり、多大な影響を受けつつもなんと乗り越えようとしている。

時代と共に変化する 音楽のあり方

打撃を受けた音楽業界

新型コロナウイルス感染症が収束している世の中だが、感染拡大中の音楽業界の変化について尋ねると「コロナでライブハウスは早いうちに神

がする。ダブルぐっちー(函館出身お笑い芸人)と話していたときに思つたのが、お笑いのほうが人気あるんぢゃないかな。バンドはお笑いと比べてそこまで求められていないのかな?と。以前はギターヒーローがいて、ミュージシャンが売れていた。今はそれが否定されている?ような感じで、新しく□と○〇とかのコンビで出てきたり、弾き語りで出てくる人はいるけど、ミュージシャンはなかなかハードルが高く難しい。やっぱり弾き語りだと身軽だからね。でも、プロにならなくとも表現すれば別にいいと思う。今は自分でCDもDVDも作れちゃうし、それで十分になつてゐる。今はいかに楽に・簡単に・手軽にやるかが重要になつてゐるから。昔は遠回りをしたいと思つてたけどね。」と話していた。

新型コロナウイルス感染症が収束している世の中だが、感染拡大中の音楽業界の変化について尋ねると「コロナでライブハウスは早いうちごく

新型コロナウイルス感染症が収束している世の中だが、感染拡大中の音楽業界の変化について尋ねると「コロナでライブハウスは早いうちに神

最後に現代の音楽文化について聞いてみると、「今はYOUTUBEなどの無料動画配信サービス、その他無料で音楽を聞けるアプリ、ソフトなどがあり、誰でも気軽に音楽を楽しめる。むかしYOUTUBEがな

今回 鈴井さんにインタビューをして僕が生まれる前の音楽業界の背景から今の音楽のことまで幅広い話を聞かせてもらい、とても興味深いものだった。まだコロナウイルスの影響は完全には復活しておらず、困難を乗り越えようとしているところだそう。今回の取材を通して僕は「音楽は時代によって変化するものなのだ」ということを実感した。その上で昔から人気が今でも親しまれている楽曲は本当に素晴らしいものなんだと感じた。

歌林卷之二

無料で音楽を聞けるアプリ、ソフ
などがあり、誰でも気軽に音楽を遊
しめる。むかしYOUTUBEがな
かったとき、ただ形としてレコード

の上で昔から人を
てはいる楽曲は本当に
なんだと感じた。



若者に新たな 表現の場を **ARARA**

2019年11月17日にオープンしたライブハウス「ARARA」。店長の加藤さんは、学生時代を函館で過ごし、バンドマンとして上京を経てからその後函館に戻り、ライブハウスの経営をはじめた。

函館の新しいライブハウスの店長加藤さんは、今の函館の音楽シーンをどのように捉えているのだろうか。

コロナの前と今とこれからと

昔と比べると、函館の音楽シーンは小さくなっていると思う。自分が中高生だった頃よりもバンド数も減っていて、音楽のジャンルも少なくなつた。それが寂しいと感じる。例えば、メジャー・デビューをしたい、東京に出たいからバンドを頑張る、という子達が全くいないという状況もあった。ただ、の中でもCDをつくりたい、ライブをしたいなど、発信、自分の作品を誰かに届けたい、と思っている人は少ししづつ増えている。数年前はそういうのが少なくて、音源をつくりました、それで終わり。ライブ会場でCDを売りました、それで終了、というのが多かった。それだとせっかく創ったのにどこにも届かない。なので、僕は発信したいという人たちの手助けができる存在になれればと思っている。函館にはかっこいいバンドがたくさんいると思っているから。せっかく頑張っているのに、発信出来ない状況が続くなのは嫌なので、発信させてあげたいと思う。

多様化する 新しい薬の副作用

詰は嫌なので、二〇二〇年も少しつづり収束に向かい、段々と音楽業界も規制が緩和されていき、今年に入り少しづつブロのアーティストやインディーズのバンドも迎えられるようになつていつた。二〇二三年にしてやっと僕らはスタートを切れたなという感じ。でも、コロナ禍でなかつたらやつていなかつたこともあつただろし、お店としても変化があつた。お客様をどれだけ呼べるか、とかもあるけど、お客様が居て楽しい、居心地がいい空間にしたくて、内装を変えたり、テーブルなどをD-YEで自分たちで作つたり。学生さんも来やすいライブハウスにしようと思った。コロナでやる気が削がれてしまつたプレイヤーたちに、一緒にやろうぜ！って声をかけるのもライブハウスの役目だと思うし。

コロナ禍で見えた
ライブハウスの役割

業し、スタッフと協力して函館の音楽シーンを盛り上げていこう、となつた矢先にコロナが始まつて。まず一番最初に、未知のものと対峙する訳だから、どうすればいいんだろうという僕らの心境の変化、不安があった。スタッフ皆の気持ちも脆くなり、折れてしまつたり。さらに、バンドさんのやる気が一気に失速してしまつた。コロナでライブに出られないため休止する、解散するというバンドもたくさんいた。それは僕らライブハウスでのステージも少なくなる事に直結するし、大変だった。コロナの出始めの頃は、コロナでも安全に遊べるようにするにはどうしたらしいだろう、そして、バンドを解散させない為にはどうしようかと考え工夫を凝らした。正直辛い日々だった。ただ、それは周りには見せないよう、笑顔で対応していた。エンターテイメントを売っているのに暗い

多様化する 新しい薬の副作用

**多様化する
新しい音楽の届け方**

歌樹卷通して

変わりゆく音楽の表現や関わり方の中で、ライブハウスも少しづつ変容していっている。しかし、根源的部分——人と人が交流する、みんなの居場所であるということは変わらない。音楽に留まらない表現の場、交流の場として、今後一層、函館の今、"ライブ"が色濃く映し出される、そんな空間になっていくのではないだろうか。

多様化する 新しい薬の副作用

多様化する
新しい音楽の届け方

歌林卷通して

変わりゆく音楽の表現や関わり方の中で、ライブハウスも少しづつ変容していっている。しかし、根源的部分——人と人が交流する、みんなの居場所であるということは変わらない。音楽に留まらない表現の場、交流の場として、今後一層、函館の今、"ライブ"が色濃く映し出される、そんな空間になっていくのではないだろうか。

私たちの青春

Us Youthe



續編後記

EACH 参加2回目で今回も寮生活
という活動しにくい環境の中ではあつたのですが、寮、学校の先生方が様々
な面でサポートをしていただき、取材、記事の執筆が出来ました。ご協力
ありがとうございました。僕は、あうん堂さんのインタビュー、記事の執筆
をさせていただきました。取材を通して音楽の昔のことからコロナ禍のこ
と、現在のことまでしれて興味深くとてもいい経験をすることができまし
た。グループの皆さん、参加できない時があつたり、連絡が取りにくいため
りがとうございました。取材をさせていただいた皆さん、お忙しい中、貴重
な時間をいただきありがとうございました。とても興味深いお話を聞かせて
いただきました！

ライブ以外で中々ライブハウスに行く機会が今までなかったので、今回取材に行くことが出来、ライブハウスでの取り組み、音楽やライブだけではなく、お芝居や演劇などの活動、企画を知れたので、また是非お邪魔したいなと思いました。表現の場や幅が広がって、いい感じで楽しめますし、表現者が活動しやすい環境が函館にもっと増えていくといいなあと思います。僕も、アーティストというと少し恐れ多いですが、そのような活動に参加していくきっかけになりました。また、かっこいい仲間達を誘って、かっこいい人たちは一緒に、なにかワクワクするようなおもしろいことが出来たらいいなと思っています……！令和VERの泥臭さを僕も体現していけたら…

私は去年に引き続き、携わらせて頂きました。今年はデザインを中心におこなった活動を積極的に行っていましたが、取材先の格好良さを表現できたを思います。父が学生時代に函館で音楽活動を行っていたことや自分が幼少期から音楽に精通していたことから、今回函館の音楽シーンの過去と未来を見る事ができ、大変面白かったです！また、右の写真を見てお気付かかと思いますが、私は音楽だけではなく、漫画やアニメが大好きで聖地巡礼が趣味です。実はこの函館は多くの作品の聖地にもなっておりその数は少しづつ増えています。あまり興味が無かったジャンルの魅力、ずっと函館に住んでいると逆に気が付かなかつた文化をEACHを通じて読んでもうださつ皆さんにお届けできたら幸いです。

今回私は100%活動に参加するのは難しく、ライブハウスについてあまり学べなかつたのですが、編集の佐藤さんや直接行ってきた方たちから、その場の雰囲気、店長さんの熱い思いなどとを伝えていただき、できるだけその熱い思いと雰囲気を少しでも表そうと全力でイラストを描かせていただきました。音楽とは少し違いますが、私は絵を描くことが好きで、芸術についていつもより違う角度で知れた気がします。このような機会を頂き本当にありがとうございました。



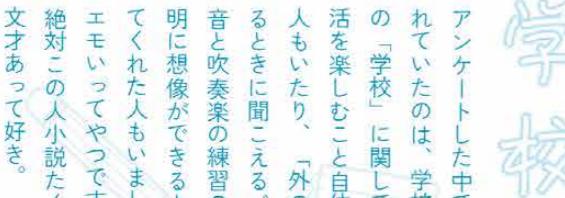
青春ってなんだ？

私たちの記事のテーマは「私たちの青春」。

その根幹にある問いはこの「青春ってなんだ？」というものにあると思います。

私たちはこの問い合わせ、地元の高校生たちにアンケートを取りました。

皆さんの青春を、文と写真を見ながらたくさん思い出してくれたらなあと思います♡



学校



アンケートした中で一番多く挙げられたのは、学校行事や部活などの「学校」に関してでした。高校生活動を楽しむこと自体が青春だといふ人もあり、「外の部活をやってるときに聞こえるバスケットのパッシュ音と吹奏楽の練習の音」という、鮮明に想像ができるようなことを書いてくれた人もいました。

絶対この人小説たくさん読んでる。

絶対この人小説あって好き。

絶対この人小説たくさん読んでる。

絶対この人小説たくさん読んでる。

絶対この人小説たくさん読んでる。

※イメージ図です
次に多かったのは、「恋愛」に関してでした。デートする、彼氏と帰る、片思いなどがありました。片思
いするだけの人生でしたが、一切成就したこと�이ありません。積極的に行くのも怖いし、消極的になりすぎ
ますねえ！相手の気持ちがわからぬ
いスリルがあって楽しい！
そして「良くも悪くも恋愛」と書いてる人もいました。何があったんだ…

友だち



次に多かったのは、「友達」に関してでした。くだらないことを話したり、遊びまくったり、遠いところに出かけたり。スマホで写真を撮る、なんのものもありました。この感覚は今しか感じることのできないもののかな、と文章を打っているときにふと思いました。

現役高校生たちの青春と今読んでる皆さんの青春、どんな違いがありますか？

What are we focus on...?

現役高校生たちは、今なにしてるん？

現役高校生は今、一体何に力を入れているのか！？
スマホやらゲームやらが普通になってきた今の時代、
どんなものに力を入れているのかアンケートを取りました！

趣味編

1. バドミントン部

圧倒的に多かったのは「バドミントン部」！
私たちの高校では1番部員数が多い部活です！
中学にはなかったので、高校にはあるという話を聞きつけて入学前から入ろうと決めていた人もいました。

2. 山岳部

次に多かったのは「山岳部」！
全国で見てもなかなか珍しい部活なんじゃないでしょうか？実は私たちのメンバーの中で4人中3人が山岳部なんです！ものすごい確率！

3. サッカー部

次に多かったのは「サッカー部」！
とても人気の高い部活だと思います！
私個人の感想なんですが、サッカーやってる人ってモテる人多くないですか、？それか、人気メチャクチャ高いけどなぜかモテない、みたいな、

1. 筋トレ

趣味編1位は「筋トレ」！
動画を見る、とかではないのがびっくりです、！
この回答は男子が多かったです。体力をつけたいからなのか、かっこよくなりたいのか、それかストレス発散のためにしているのか、この真相は筋トレをしている人たちじゃないとわからない、、

2. ゲーム・メイク

次は「ゲーム・メイク」！
この2つは同率でした！ゲームは高校生に限らずいつの時代の人もやっていますよねー！今はスマホゲームがあるので、ゲーム機がない家庭もあったりするのではないか？

メイクは高校生はもちろん、小学生からやっている子もいます、！ファッションセンスもあるしなんか、、すごいですよね今的小学生、、私は高校生でようやくメイクやファッションに興味持つ始めたっていうのに(TT)

次に多かったのは「」でした！



新撰組副長だけじゃやない！
知らない私たちから見た土方歳二



函館にいと私たちから見た土方歳二

編集後記

～私たちの青春の曲

QRコードを読み取ると自分達が思う青春曲に飛べます！
是非聞いてみてください！

Ouchi Mina
大内 美渚



Oguri kaede
小栗 楓



Nisikawa Miyuu
西川 実優



Yamazaki Mihana
山崎 心花



こんにちは～！私は初めてこういう活動に参加したのですが初めはデザインや文章で行き詰まって周りとの差に焦っていましたが、周りの方々に協力して貢献したおかげで満足のいく面白い内容になったかなと思います！2人で協力して頑張ってきたので沢山読んでいただけたと嬉しいです！

土方歳三

逸話・エピソード集

登場人物紹介



私生活について

- 容姿がよく、女性に人気であったため、頻繁に恋文(ラブレター)が届いた。
- 沖田総司曰く俳句が上手く、書き留めた句を自らまとめ、「豊玉発句集」として残している。

武士への憧れ

- 子供の頃から武士に憧れていたと言われていた。
- 新選組時代には厳格な法度を定めた。当時武士は現代のサラリーマンのような感じだった。切腹も実際に扇子をあてて簡易的に行われていたが、新選組では切腹が存在していたという。この事から、土方歳三は武士へ強い憧れを持っていたことがわかる。

入隊前

- 実は新選組に入る前の土方歳三は、薬売りをしていた。また、日頃から道場破りを行っていたと言われる。

好物

- 沢庵(たくあん)が好物で、山盛り食べていたとされ、気に入ったものはその沢庵が入った樽ごと担いで持ち帰ったと言われている。



土方歳三 経歴

一八三五年～一八六九年
幕末期の幕臣、新選組副長を務める。
新選組では鬼の副長と呼ばれていた
が、実際は人の面倒見がよく仮の土方
歳三とも言っていた。新選組時代に
は局長近藤勇の右腕として組織を支え
た。戊辰戦争では旧幕府側指揮官の一
人として、各地で戦った。戊辰戦争の
最後の戦場の箱館五稜郭の防衛戦で戦
死。



教えて！土方さん



というわけでよろしくお願ひします！

うむ

土方さんってどんな刀使ってたんですか？

うむ、和泉守兼定(いずみのかみかねさだ)という刀を愛用していたござる。

和泉守兼定は江戸時代の刀工
11代目兼定によって作られ、全長は
93.6cmもあったござる。



*イメージ



生涯の主な出来事



土方歳三と言えば… 五稜郭！！



↑箱館奉行所

〈逆さ葵について〉
逆さ葵とは、逆さになっている徳川の御紋のことである。逆さにしてある理由としては、「世の中に完全なものはない」という意味が込められており、未来永劫の繁栄を願つてあります。

幕末の函館開港の際に設置された江戸幕府の役所。開港に伴う諸外国への対応、蝦夷地をはじめとする北方防備が主な役割であった。戊辰戦争の終了後に解体されたため、地上に存在した期間は七年間のみとなる。その後、奉行所に関連する文献が少ない中、全体の三分の一規模となる、約千平方メートルをかつてと同じ場所に復元。建物周辺には、未復元の遺構が残されている。また、復元の際には、パリの骨董店で発見された、奉行所の写真が大いに役立った。解像度の高い画像で、屋根瓦の枚数を数えることができた事、ほぼ斜め四十五度から撮影されていた事が鍵となり、精密な設計のもと復元が可能となった。



①五稜郭に群生する菱(ひし)↑

家の御紋である葵とは異なり、逆さ葵はとても名誉なことが分かる。箱館奉行所玄関の上の瓦にある三つ葉葵の紋はさてどうなのか？

〈橋について〉
かつて五稜郭にかかる橋は全部で五つだったが、二つは箱館戦争の際に取り外されてしまったとされ、現在は一の橋、二の橋、裏門橋の三つのみが存在している。



↑新政府軍の軍艦に艦載されていたと思われるクリップ砲(ドイツ製)

考 察

晩年を考えていたのか？

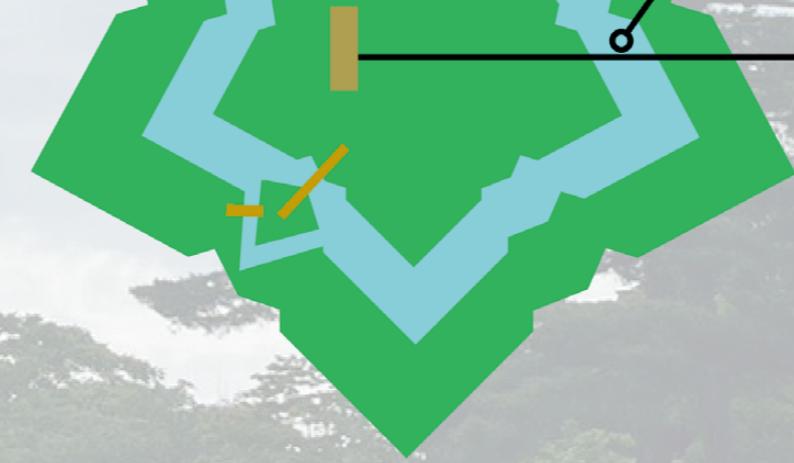
土方歳三は函館で最後の時を過ご

したのだから、函館にずっと滞在し、多くの逸話を残しているのだ

ろうと思っていました。ですが、実は土方の函館で過ごした時間は少なく、遠征のために他の都道府県に足を運んだりと慌ただしく過ごしていたそうです。そんな土方

はどのような思いで函館にやってきたのでしょうか。婚約を承諾した女性がいたり、箱館政府が樹立された際に、仲間たちが祝杯を交わしていたのにも関わらず、「今は酒を飲み浮かれるときではない」と言っていた事から、戊辰戦争で新政府軍に打ち勝つことが難しいと実感していた一方で、生きて帰ってくるんだと強く決心していました。

(春菜)
（遙）



私は、土方さんが新撰組として戊辰戦争に参加している時点で、土方さんは死んでしまうのだろう、

と思っていました。理由は、戊辰戦争とは新政府軍と旧幕府軍の戦いで、新政府軍の方が武器が圧倒的に強いので、最後（終戦）まで

土方さんが戦い抜くのは難しいであります。

（遙）

意外と知らない？

五稜郭豆知識

〔五稜郭の名前の由来について〕

五稜郭(りょうごく)と呼ばれる近世ヨーロッパ式城郭に見られる構造が五つあるため五稜郭という通称がついた。

〔奉行所以外の建物の数〕

二〇軒もの建物が存在していたが、そのほとんどが埋め立てられてた。

〔五稜郭に水が張られていた理由〕

冬場に来る外国人達に水を供給するため、五稜郭の現在の堀の部分にて水が作られていた。

〔五稜郭の堀に群生する植物〕

五稜郭の堀に浮かんでいる植物の中には菱(ひし)と呼ばれる植物が群生しているが（①参照）、実は五稜郭の固有種である。

〔五稜郭の他の稜郭〕

五稜郭の他にも三稜郭・七稜郭が存在していた。

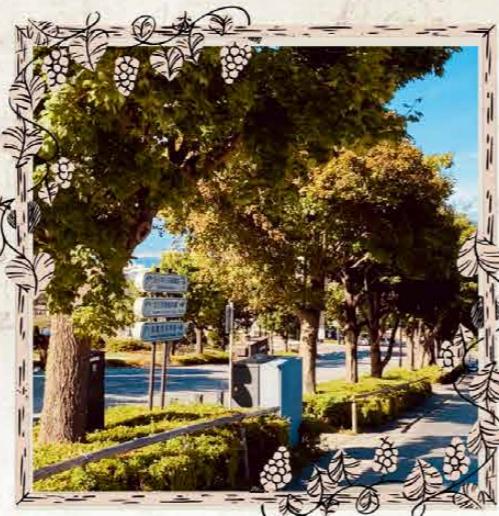
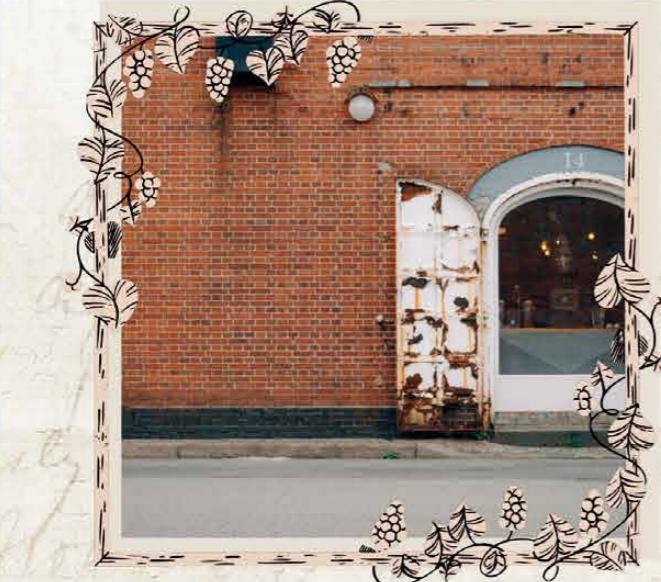
〔半月堡に存在する石垣の上から一段目に忍び返しが見られるが、日本全国の石垣を見ても、ほとんどの石垣は一段目に忍び返しが見られるため、この構造は非常に珍しい。〕

〔半月堡の構造〕

半月堡に存在する石垣の上から一段目に忍び返しが見られるが、日本全国の石垣を見ても、ほとんどの石垣は一段目に忍び返しが見られるため、この構造は非常に珍しい。

〔春菜〕

（遙）



あなたは函館の過去や未来を知りたいと思いませんか？
僕たちで未来を作っちゃえばいいんじやないか？
そうだ！
僕たちは現在（いま）の函館を生きる学生！
あれ？というか、現在ってなに？
未来ってどうなつてるんだろう？
昔つていつから？
そんな、疑問が頭に浮かんだ。
いいんじやないか！

僕たちの現在地はどこだらう

編集後記



山本葵斗



岩坂春菜



増川遙

最後まで見てくださって
ありがとうございます



土方歳三と地域という難題なテーマでスタートし、他のチームよりかなり進み具合が遅れていたこのチームですが、最後の最後にこの記事を完成させることができたのはチームメンバーの努力、そしてバックアップの皆さんサポートがあったからだと思います。数多くの苦労がありましたが、最も苦労したのは実は五稜郭のイラストです。一見ただのフリー素材のような感じですが、実際は約三〇個の図形からできています。そんなメンバーの思いが詰まったこの記事が読者の皆さんにとって少しでも良いものとなってくれれば嬉しいです。

メンバーがみんな高校生ということもあり、それぞれ、テストや学校の行事と両立しながらeachの活動をしてきました。忙しい中、みんなで時間を合わせて話し合いをするのも一苦労。他のグループよりも大幅に遅れをとってしまい、本当に完成させられるのか不安でいっぱいでした。ですが、今こうして完成した記事を無事、皆さんにお見せすることができています。他の誰が何と言おうと、この記事は私にとって1番のものだし、メンバーのみんなと一緒に頑張った証です。高校生としてこのような活動に参加できるのもあと少しなので、今回のeachでの活動を踏まえて、新たな挑戦をしていきたいです。

今回、私はイラストの部分を担当させていただきました。最初は不安でしたが同じチームのメンバーの声や、バックアップさんの声に元気づけられて無事イラストが描けました！イラストが描けた時の達成感は凄かったです。最後に、高校生だけで取材をし、記事を書くのは初めての取り組みだったのでとても楽しかったです。次回も機会があれば参加してみたいです！

「過去」をたどる私達

八百屋と函館

角さん



谷地頭で小さな八百屋を営む 角さん
昭和24年5月 函館生まれ 74歳

好きなもの スキー
家族構成 妹5人 父母 父は床屋を経営していた

僕らの知らない函館の
過去を、昔から八百屋
を営んでいる角さんに
迫った！！

01 当時のお手伝い・個人的なご褒美

彼が小さかった頃は、お手伝いをあまりもえなかつたそうだ。そのわざかなお手遣いを握りしめて、よく駄菓子屋へ足を運んでいたらしい。飴玉が好きで、いつも舌の上で転がしていた。

高校生のときは部活には所属しておらず、そのかわりにアルバイトを始めた。内容は彼の父親が床屋を営んでいたので、父の店の手伝いが主だった。

さらに父にお弟子さんがいたため、お弟子さんが店に来たときの食事の用意や彼の母が忙しいときにおつかいに出たりもしていたらしい。

02 当時の流行り・趣味

高校生の頃から大きなスキーチームがやつてきた。その波に乗るために彼は全力を注いでいた野球をやめてスキーチームを始めた。しかし当時函館にはアルペンやゼビオのような大型のスポーツ用品店がなかったため、テレビで流れているような最新モデルのウェア、シューを手に入れることが難しかつたようだ。テレビを見ながらZEN MODELを使う選手に憧れを抱く日々だった。

大学に入るとスキーチームに所属し、彼も友人もオーダーメイドでチムウエアをつくつたそうだ。チムウエアをつくつたそうだ。

高校生の頃から大きなスキーチーム

がやつてきた。その波に乗るために彼

は全力を注いでいた野球をやめてスキ

ーを始めた。しかし当時函館にはアル

ペンやゼビオのような大型のスポ

ーツ用品店がなかったため、テレビで流れ

ているような最新モデルのウェア、シュー

を手に入れることが難しかつたよう

だ。テレビを見ながらZEN MODELを

使う選手に憧れを抱く日々だった。

大学に入るとスキーチームに所属

し、彼も友人もオーダーメイドでチ

ムウエアをつくつたそうだ。

チムウエアをつくつたそうだ。

座談会

「現在」にいる私達

いま



ふったん市長(36)

※今から20年後

函館をもっと人気にし、人口を増やすため教育に力を入れたいです。今ある学校を全力でサポートするのはもちろん、さらに新しい大学を作りたいです。

なぜ大学なのかというと、行きたい学校が函館にあれば移住してくれるのでは? そうしたら函館の人口が増えるかも!と考えたからです。

私が作りたい大学は、学校行事を全国の学校より盛り上げて「北海道の大学といえばここ」というぐらい有名な学校です。学べる学問も豊富で、ITや海洋学だけでなく函館の歴史について深く学べたら、函館のことをもっと好きになってくれること間違いなしだと思います! 校舎は昔の建物をリノベーションし、歴史を感じられるようなものにしたいです。

バックアップさんの意見から卒業後のサポートとして、函館市内の企業に就職しやすくしたり、働きやすい環境を整える必要があると思いました。私達が行った座談会のように今の函館をどうしたいか考える授業があったらいいなと思いました!



やっちー市長 (45)

※今から28年後

今、「トマム」や「軽井沢」などのリゾート地が全国的に人気となっています。そこで私が市長になったら、函館の隣町「七飯町」の景勝地「大沼」を大型リゾート化したい。それが実現できれば、函館に来たついで、もしもメイントー訪れてもらうことが増え、街が一層賑やかになると考えたからだ。

日本を代表するリゾート地「軽井沢」の例をみてみると、新幹線駅の近くに大型アウトレットモールがあり、周りには高級なリゾートホテルが軒を連ねている。大沼に当てはめてみると、湖畔にアウトレットモールと家族連れにもってこいの広い芝生が広がる公園、湖畔とスキー場の近くに高級リゾートホテルを建設すれば金銭的には面倒ではないことが可能となる。

しかし、今の大沼のどかさが好きで移住してきている人がいるのは事実だ。開発を行えば、従来の姿が失われてしまうのは少し寂しいことである。今の姿を守りつつ、新しく開発していくのが理想像だと感じた。



今の流行りってなんだろう?

つつきー やっぱアニメ!

やっちー アニメが文化になつて

きてるよねー

当時の流行語つてなにか

きていておけばよかった!

ちなみに今の流行語つて

何だろう?

かえるか現象、YOUTUBE

♪POP、あとレトロブームとか?

YOUTUBEって最早日常になつてきてるし、そもそも

もスマホつてものが昔から

らしかなり変化だよね。

リバーバルで戻ってきて

るものと、全く新しいものがあるよね。

今は流行りが生まれると

ころがひびだつたけど、

昔はそれが噂だつたり、

対面の交流からなるもの

が大きかつたよね!

それって今と昔どっちが

良い?

私は情報を早く拾いたい

からひびかなー

私も人見知りだからなー

実際に会話することも大事だけどやっぱひびかなー

事だけやっぱひびかなー

やっちー どっちも大事だよね。時代に並行していかなければいけないとも思うし。

雪見 当時と現在の賑やかな場所つて?

やっちー どうも大事だよね。時代に並行していかなければいけないとも思うし。

雪見 杉の子は大門にデパートができると全てが集結してた!

やっちー 八百屋がたくさんもです!

前まで大門一か所だったけど

それが分散したような感じ

じたよね。

今は、美原とか昭和とか郊外の方が人が集まるように

なつてる気がする!

全体的に都会になつてきたのかな?

店が沢山あれば都会?

そもそも賑わつてる場所つて何だろう?

都会の定義は色々な文化的

設備があつて商工業が盛ん

で、人も多いらしいよ!

函館は人口も減つてきて

し、段々と無くなつて

ものの方が多いよね

デパートも今は丸井しかな

いし、

もう終わりだ笑でもきっと

ドンキは大丈夫!

新しく出来るものつてあん

まりないですよねー

よし! 移住したくなるような

函館を僕達で描こう

これからどんな街になつてほしい?

まず人が多くなつて欲しいなー! あとIKEAも欲し

い。

雪見 ふったん

コストコも欲しいですよー! 欲しいー!

雪見 ふったん

コストコ? 笑

やっつー だけど、コストコは人口が50万人ぐらい、じゃないとつくれないからなー、詳しそうじやね?

やっつー でも人が多いところじゃないと、そういう店が来ないってことだねー

やっつー 詳しそうじやね?

やっつー でも人が多いところじゃないと、そういう店が来ないってことだねー

やっつー じゃないかなー!

やっつー 観光客を増やすのも手かな。大泉市長も新幹線を函館に開通するつて言つた

でも観光客よりも住んでいる人が増えて欲しいよね

土地はあるんだろうけどなあ。

五稜郭とか人気のスポット

はあるけども、移住したいつてなるにはどうしたら?

あ。

Editor's Note

「ローカルマガジンを作ろう」プロジェクト
講師・スタッフによる編集後記

バックアップスタッフ

『IN&OUT -ハコダテヒト-』編集長 阿部 光平



手探りで始めたeachも3号目が完成!バックアップする側の経験値も上がってきたのですが、「だったら次は新しいことをやろう!」と考えるチームなので、今回も手に汗握る展開の連続でした。ただ、終わってみると「学生のみんなと同じように自分たちもチャレンジしない意味がない」とも思っていて、それこそがモノ作りの面白さなのだろうと実感しています。制作メンバーも苦労の先に手応えを感じてくれていたら、こんなに嬉しいことはありません。

一般社団法人いとのこ 下沢 杏奈



私がeachに関わるのは、みんなの顔が最高だからです。チームメンバーの誰もが完成が見えず悶々している中、徐々に記事をつくれてきて、これだ!と思えるようなものが出てきた瞬間のみんなのキャラクタした顔を私は一生忘れません。そのみんなの一瞬が一冊に込められてるeach、最高かよ!

やくもの寺子屋 すみか

Gスクエアスタッフ

センター長 岡本 啓吾

みんなが集まる函館から80km離れた八雲からオンラインでの参加。高校生にとっても私にとってもeachにとっても初めての挑戦となりました。多忙の中記事を完成させた学生達。ほんと頑張ったよね。未来につながる喜びや葛藤、学びや悔しさ、何か一つでも彼らの中に残っていてくれたら嬉しいです。

ローカルマガジン企画担当 大友美維奈

3度目のeachだけど、毎回がはじめてのeach。コロナも明けて学校生活や行事などがやっと戻ってきて、学生達の動きが一気に変わった節目の回でした。その分大変なこともあったけど、それぞれの今や個を切り取る唯一無二の雑誌ができました。

初めて参加するeach。バックアップとして学生達と関われた4ヶ月は刺激的な日々で私自身も成長させてもらいました。一人一人が悩み、考え、色々な想いを詰めた「each」。多くの人が手に取ってくれると嬉しいです!

Special Thanks

eachロゴデザイン 藤倉朱里

表紙写真 Yusuke Oishi (MARCOMONK)

each
No.03 2023.10.15発行

発行/
函館コミュニティプラザGスクエア
〒040-0011 北海道函館市本町24番1号シエスタハコダテ4階
eachに関するお問い合わせは「info@g-sq.jp」まで
無断転載禁止



▲GスクエアInstagram



▲GスクエアX

編集後記

谷内田 晴 (やっちー)



僕は、今回お話を伺った人みんなが函館を想っていることに気づきました。それぞれが違う未来を抱き、でもゴールはみんな同じ「発展」を望んでいました。地域を想うその姿はやはりカッコよかったです。それらの人たちによって自分たちは支えられるんだなということも強く実感できました。何と言っても、未来を彩っていくのは自分だから、彩るために貴重な経験をeachで収穫できたと思います。今回の経験を通じて、自分のページをカラフルに塗りつぶしていきたいです。何より仲間と協力しあいながら、eachを完成させることができて良かったです。

大住 双葉 (ふったん)



デザイナーを担当いたしました、ふったんです!私は部活動に所属しておらず、何かやらなければ...!と思いeachに参加しました。初めての取材ではメモ係を務めました。昔の函館を開けて面白かったし、取材仲間との会話も楽しかったです。表紙の写真を撮りに行ったときは、移動しながらアニメの話で盛り上がりいました。半年と聞くと少し長いような気がしますが、出来事すべて紹介できないのが残念くらい面白いことがたくさん起きました!気つけばもう完成です。eachでの出来事は全部宝物です!雑誌も家宝にします!本当にありがとうございました!!

石中 月乃 (つきー)



初めての体験。インタビューする、記事を書く。それは私にとって今まで触れてこなかったもの。しかし、函館で生まれ育ち15年目。私はインタビューをしている時、何ひとつ「あー!私も知っています!」となるものはなく、この町で生まれたはずなのに、と不甲斐なさに押しつぶされそうになった。だから、私はもっと函館を知りたい!もっと函館の魅力に気づきたい!そして、それを自分の中だけに取り留めておくのではなく私のような学生、函館に住んでいる人、住んでない人にも記事として教えたい!そのような気持ちが強くなるとても良い経験でした!

田福 雪見 (ゆきみ)



今回始めてeachに参加しました。同じ若者同士でなかなか事が進まないと思っていたましたが、バックアップの方々の明確な指示のおかげで本当にサクサク進められました。勉強と部活の両立や、初めてやることの多さにかなりつまづきましたが、それでもチームのフォローが本当に助かりました。あまり活躍できたとは感じませんでしたが、己の成長をしっかり感じることができるプロジェクトでした!もっと沢山取材したり、チームに貢献できるようになりたいです。